



# 碧南ロータリークラブ週報

第2492回例会 平成22年3月10日(水)

● 会長 鈴木 並生 ● 幹事 長田 豊治 ● 会場監督 (SAA) 新美 真司

■ 例会日 毎週水曜日 12:30

■ 例会場 碧南商工会議所ホール

■ 事務局 碧南商工会議所内

〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)

■ 会報委員 岡本明弘・新美雅浩・大澤明敬・西脇博正



2009-2010年度  
国際ロータリーのテーマ  
THE FUTURE OF ROTARY  
IS IN YOUR HANDS

## ● 齊 唱

ロータリーソング「我等の生業」

## ● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

## ● 本日のお客様

一般社団法人 DCM推進協議会 代表理事・工学博士 後藤幸義氏

一般社団法人 DCM推進協議会 佐々木克正氏

## 会 長 挨拶



鈴木並生会長

先週の卓話は浅井様に藤井達吉翁のことについてお話をいただきましたが、時間がなくて大変申し訳ありませんでした。また碧南市には皆様方よくご存じの藤井達吉美術館がオープンして3年たち、色々な企画展、展覧会が開かれております、ぜひ足を運んで戴きたいとおもいます。

さて少し前の雑誌に美術展のことが載ってましたので紹介させていただきます。今年5月に、東京六本木の国立新美術館でオルセー美術館展が開催されます、これはフランス国立美術館オルセーの館長自身が監修する、国立新美術館開館以来の大型海外展だそうです。

本日私が皆様にお話するのは、絵画の話ではなく、展覧会開催の為の輸送や保険の話を紹介させていただきます。

保険の場合はその作品の価値によって掛け金が大きく違います、例えば、2008年に亡くなったイブ、サンローラの収蔵品のオークションが、昨年2月パリで世紀のオークションとして開催されたそうですが、中でも注目を集めたのが、マチスの作品に43億円の値がついたそうです。仮にこのマチス級の絵画50点を集めた展覧会を企画した場合、総額2000億円を超えるものとなります、但し50点の展覧会は決して大型とはいえないそうですが、仮に2000億円に対する保険料はというと4億円位になるそうです。よってこんな豪華なマチス展は夢のまた夢と云うことだそうです。

世界で人気の高い印象派や、ゴッホ、マチス、ピカソ、などは美術品マーケットでも値が高く作品バリューも高い、日本で開催されるこの手の大型展の作品価値総額は数100億円から1000億円位が相場だそうです。そういう展覧会に掛ける美術専用保険はすべての必要なリスクをカバーするという意味で「オールリスク」、あるいは美術館の壁を離れてから壁に戻るという意味で「ウォール、トゥー、ウォール」、と呼ばれています。美術展保険はまさに生き物、同時期に世界

で大きな展覧会が重なったりすれば、保険市場は払底して料率は高くなり、また東京で同じ時期に大きな展覧会が重なれば集積リスクが発生して、料率はさらにアップするそうです。実際に作品価値総額が数百億円から1000億円の印象派の展覧会を開催しようとするれば、その保険掛け金は数千万円から数億円のぼる。さらに作品の価値はドルや、ユーロで算出されているから為替リスクも発生する。主催者は保険の料率だけでなく為替相場にも一喜一憂させられるそうです。

次にその大切な美術品の輸送ですが、海外からは当然飛行機で運ぶわけですが、想定されるリスクをなるべく小さくする為に飛行機1機当たり百億円程度までと云うのが貸す側、借りる側の暗黙の了解事項になっているそうです、もっとも航空会社もリスクヘッジの為にこれ以上は載せてくれないそうです。したがってルーブル美術館展や、オルセー美術館展のようにひとつの美術館からすべての作品を借りる場合は5便とか6便とか、多い時には10便位に分かれてはるばる海を越えてやってくるようになります。これに対して、モネ展など一人の芸術家についての展覧会では、世界中の所有者から1点から数点ずつ作品を借りる為、この場合は価値の分散より飛行機やトラックのアレンジが大変だそうです。

実は美術品は航空会社にとっては割のいい積荷ではないそうです、美術品輸送はダメダメ尽くしです、扱いのデリケートさは精密機械以上じゃあないとダメ、他の荷物と「混載」はダメ、段積みもダメ、空調が整った貨物室でないとダメ。まさにわがままな「女王様扱い」でやって来るそうです。保険料、輸送料、だけを見ても想像以上に費用が掛かりますので、入場料の高いのも仕方ないかもしれません。

ちなみにオルセー美術館展は5月26日から8月18日の約3カ月間、六本木の国立新美術館で開催されているそうです、興味のある方は一度見学してみてください。  
以上で挨拶を終わります。

## 幹事報告

- 他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。
- 5月12日の例会が第2500例会となるので記念例会として、衣浦グラウンドホテルで午後5時30分より「オペラの香りコンサート」と銘打って行うことが先週の理事会で決定されました。詳細は近日中にご案内致します。
- 碧南高浜防犯協会よりポスターが届いておりますので掲示をお願い致します。
- 本日例会終了後、午後2時10分からあおいパークで記念植樹を行います。お時間のある方はご参加下さい。



長田豊治幹事

## 委員会報告

### 〈出席奨励委員会〉

総会員数76名(内出席免除者14名の内出席者8名)出席者62名	
出席対象者 62/69名	出席率 89.86%
欠席者14名(病欠者1名)	前々回修正出席率 100%

### 〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 長田 昌昇君 皆様楽しい思いをさせて頂きました。
- 石橋 嘉彦君 本年度の碧南RC植樹計画において、あおいパークに「ロータリー・ガーデン」を整備、施工させて頂きありがとうございました。本日14:15よりあおいパークにて贈呈式典が開催されます。
- 木村 徳雄君 先日、長田昌昇さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。くせになりそうです。

本日の講師、一般社団法人DCM推進協議会代表理事 後藤さんを紹介します。

奥田 雪雄君 孫が2才の誕生日を迎えました。

大竹 密貴君 昨日、新美宗和さんには大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

## 卓 話

### DCM推進協議会 代表理事・工学博士 後藤 幸義氏

ただいまご紹介いただきました後藤でございます。宜しくお願  
いします。

本日お話させていただく内容は、「過去の大地震に学ぶもの」  
「備えあれば憂い少なし」です。私どもの活動では自然災害のデー  
タを扱っていますが、みなさまが住んでみえるここ碧南エリアは、  
東海地震・東南海地震・南海地震といった海洋地震が想定されま  
す。この3つの地震は過去のデータから言いますと連動しており、東海地震は明日起こっても不  
思議ではない状況にあります。地震のリスクは①揺れ②地盤の液状化③津波の3つで碧南エリア  
はこの3つの要素が揃った地域です。



それでは過去に起こった大地震について説明します。まず阪神・淡路大地震（マグニチュード  
7.3 被害総額 10兆円）は、日本の産業集積地で起こった初めての大地震で、液状化現象により  
港湾機能がほとんど壊滅しています。ただ一箇所耐震を施した護岸（摩耶埠頭）には被害があり  
ませんでした。液状化の概念は土だと思っていたらその下が水になってしまったという現象で、  
ですから構造物を支えきれなくなるということです。液状化が起こっても人への被害は少ないの  
ですが、構造物を掘ってみると長期的には使用出来ない程ダメージを受けています。碧南で注意  
しなくてはいけないのは、港湾で片側がない岸壁がありますが、この岸壁は大地震が起こると海  
側へ押し出されてしまい、大被害となり簡単に復旧できないということです。また碧南エリアは  
陸上部においても液状化が起こるゾーンが多いところです。

次にハイチ地震（マグニチュード7.0）ですが、この地震においても非常に参考になることがあ  
ります。地震により空港・港湾機能が崩壊しており、それに伴い行政機能も崩壊しています。  
港湾機能崩壊により大型機械が使用できない為復旧物資の積み下ろしができず、その為復旧作業  
が大きく遅れています。また空港の管制塔等の崩壊により空港が使用不可となっており復旧遅延  
に拍車をかけています。

最後につい最近起きたチリ地震ですが、この地震においても非常に参考になることがあります。  
震源地から90km離れたコンセプション（港町）が大きな被害を受け、325km離れたサンチアゴ  
は殆ど被害がなかった。東南海地震を想定した時に、ここ碧南は震源地から90km離れたコンセ  
プションよりもっと震源地に近いと想定されます。コンセプションでは2~3mの津波が4回きた  
と言われていますが、実際は10m以上だったかもしれません。50cmぐらいの津波でも人は流さ  
れてしまいます。ですから津波は非常に怖いものです。

過去の大地震に学ぶものということで3つの震災をとりあげさせていただきましたが、碧南は  
これらを参考にどのような備えが必要になるかと言いますと、①海上を通した復旧を考えなければ  
いけません。なぜかと言うと陸路はかなりダメージを受けるからです。そのための受入体制を  
整えておくことが必要です。②これだけ東海地震が起こると言われているので普段から災害対応  
の意識を高めることが必要です。③倒壊した建物の瓦礫の処理を考えておく必要があります。④  
津波の怖さを再認識していただきたい。

なによりも「備えておくことが重要である」ということで今日の話の最後とさせていただきます  
い。ご清聴ありがとうございました。

## 記念植樹



次回例会案内 平成22年3月24日(水)  
卓話「街頭紙芝居の愉しみ」 会員 黒田泰弘君